

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：72681  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22520058  
 研究課題名（和文） タイ伝承写本にみられる「マハーブッダグナ（偉大なる仏徳）」の研究  
 研究課題名（英文） Study on Mahabuddhaguna, the Virtues of the Great Buddha written in the Manuscripts handed down in Thailand  
 研究代表者  
 田辺 和子（TANABE KAZUKO）  
 公益財団法人中村元東方研究所・研究員  
 研究者番号：20217102

### 研究成果の概要（和文）：

本研究の成果は、タイで作製された、クメール文字、パーリ語で書かれている折本紙写本（一部貝葉写本を含む）の影印データをタイ、欧州、米国から入手して研究代表者田辺和子が、今まで知られていない「マハーブッダグナ（偉大なる仏徳）」と題されたパーリ文経文のローマ字転写を行い、研究分担者茨田通俊が和訳を行った。これは世界ではじめて明らかになったものである。さらにミャンマーの仏徳文献の要約を研究協力者原田正美が行い、清水洋平は写本の造形説明を行い、仏徳の注釈書の一部を舟橋智哉が解読したことである。

### 研究成果の概要（英文）：

Having collected Datas of the Folding Paper Books kept in Thailand, Europe and America, Tanabe transliterated *Bra Mahabuddhaguna* written in Pali language, Khmer letters in the Folding Book to Roman letters. Manda translated it into Japanese. The Whole Text of *Bra Mahabuddhaguna* has been unknown in the world previously. Harada introduced the Text of *buddhaguna* in Burma, Shimizu gave the explanation of manuscripts in Thailand and Funahashi deciphered a part of the commentary of *Bra Mahabuddhaguna*.

### 交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2011年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2012年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 2,800,000 | 840,000 | 3,640,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学・仏教史全般

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者田辺は、日本におけるパー

リ語蔵外文献研究を行っている吉元信行  
大谷大学名誉教授を会長とし、自身が幹事と

なり、タイ王国における貝葉写本及び折本紙写本保存の民間プロジェクト「東南アジア文献遺産日本保存会」を2007年12月に発足させ、2008年よりバンコク地域の古刹の中でも、ワットラジャシッタラム寺院の秘蔵写本の調査・保存活動をかかわりに、バンコク郊外にある古刹ワットフアクラブ寺院やペップリー県の諸寺院の写本調査・保存活動を行ってきた。そして、今までに殆ど知られていなかった、写本でしか現存していないマハーブッダグナ（偉大なる仏徳）と題する貴重な文献のデジタル画像を手持ち資料としてそろえるに至った。この写本文献については、ギンズバーグ博士が絵付き写本説明の中で、フィリオザ女史が折本紙写本リストアップの中で、同文献のローマ字転写メモを僅かに残しているのみであった。

(2) 先述の「東南アジア文献遺産日本保存会」の活動の中で、研究代表者田辺は、研究協力者清水洋平氏の協力を得て、バンコク郊外にある寺院ワットフアクラブ寺院とペップリー県の寺院ワットラット寺院が所蔵するアユタヤー時代後期のものと思われ、マハーブッダグナ（偉大なる仏徳）が主経文として書かれている絵付き折本紙写本の調査・撮影を行い、デジタル画像資料を収集していた。加えて清水氏が中心となってペップリー県の古刹ワットヤイスヴァンナラム寺院、ワットマハータート寺院、ワットアルン寺院のデジタル画像資料も収集した。これらの資料をもとにマハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の内容を明らかにしたいと願った。しかし折本紙写本の中のクメール文字は、太字で解読困難なので、これまでに発表されているギンズバーグによる写真影像をもとに解読方法を学んでいた。

## 2. 研究の目的

(1) 最初の二年間でこれらの諸資料を基にして、マハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の写本文献のローマ字転写、校合作業をおこない、校訂テキストを作成し、翻訳を完成させ、その全容を明らかにし、タイの仏徳についての考え方を特定する。

(2) 最終年度に、マハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の内容を、伝統的なパーリ聖典にみられる仏陀の徳質の捉え方と照らし合わせ、比較検討をし、タイ伝承写本にみられる仏陀の徳質に対する捉え方の特徴を明確にしたい。

(3) さらに仏徳に関する他の文献も調査する。

## 3. 研究の方法

(1) はじめに紙写本に書かれている太字クメール文字は、解読困難なので、タイ諸寺院所蔵のマハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の貝葉写本の調査解読を行おうとした。しかしこれら貝葉写本の多くは、クメール文字、シヤム語で書かれていることが判明し我々にとっては解読不可能ということがわかった。タイの研究者及び僧達もクメール文字、シヤム語で書かれている文献は解読可能な人はごくまれである。

(2) 来日予定のフランス極東学院名誉研究員写本研究家ジャクリーヌ フィリオザ女史に依頼して解読困難な折本紙写本の太字クメール文字解読の指導を依頼する事にした。ワットフアクラブ寺院とワットラット寺院所蔵の折本紙写本のブッダグナの経文解読を行ったが、フィリオザ女史よりこれまでの資料だけでは足りないとの指摘をうけた。さらにタイのワットホーンラタナラーン寺院にはクメール文字、パーリ語で書かれているマハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の貝葉写本の資料が所蔵されているはずであると、の教授をも頂いた。

(3) その後フランス、アメリカ、アイルランド所蔵の折本紙写本の調査、デジタル画像資料入手につとめる。同時にタイに出かけてワットホーンラタナラーン寺院所蔵のクメール文字、パーリ語で書かれているマハーブッダグナ（偉大なる仏徳）の貝葉写本の印影画像を収集し解読した。

(4) その後、18世紀前半作製と銘記されているワットフアクラブ寺院所蔵の絵付折本紙写本を底本にし、異本を参照しながら解読につとめた。

(5) しかし紙写本の書き方では、どのような方向で読み進んでよいかはわからなかったため、ワットホーンラタナラム所蔵の貝葉写本の読み方に従ってブツダグナの解説を行った。ブツダグナ(偉大なる仏徳)という経文の解説は、貝葉写本が発見できたことによることが大きいと思われる。

(6) タイの中部地区寺院の写本調査について寺院からの多大な信頼を得て寺院から調査と整理を依頼されている研究協力者清水洋平氏に依頼してタイ所蔵の写本(貝葉・紙)の資料提供を依頼した。

(7) ミャンマーとタイとの関係を考えてミャンマーの仏徳についての調査を研究協力者原田正美氏に依頼した。

(8) パーリ語で書かれたブツダグナの註釈書の存在を知ったので研究協力者舟橋智哉氏にローマ字転写を依頼した。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究を遂行する中で、大変貴重で希少なマハーブツダグナ(偉大なる仏徳)を主経文とする絵付き折本紙写本の全部で10以上の18世紀作製と思われる稀観本絵付折本紙写本の写真撮影を許可された。2011年8月にはフィリオザ女史の援助によりパリ極東学院所蔵の貴重本3本を研究協力者清水洋平氏を通して写真撮影させて頂きその画像資料を入手、さらに同女史からブツダグナに関する種々の情報の提供を得た。また2011年10月にはペンシルヴァニア大学のジャスティンマックダニエル准教授の援助を得てニューヨークパブリック図書館所蔵の稀観本2本、2012年9月にはダブリンのチェスタービーティ図書館所蔵の稀観本3本を写真撮影させていただき画像資料入手した。

(2) 入手できた異本を読む事に依ってははじめはなかなか解説困難であったワットフアクラブの絵付折本写本の経文の解説を終える事ができた。さらに研究分担者茨田通俊氏は、難解なインドシナパーリ語の和訳を行っ

てくれた。まだ解説不能の箇所はあるが、マハーブツダグナ(偉大なる仏徳)という経文の全容を示す事ができた。これは世界で最初の全容の発表ではないかと思われる。仏十号の貴重な資料となると思われる。

(3) ミャンマーにもマハーブツダグナ(偉大なる仏徳)に近い関係の文献が存在することも知られた。

(4) ブツダグナの註釈書、アッタカターブラブツダグナも解説できた。

(5) タイは蒸し暑い国である。そのような地域でどのように写本が保管されてきたか、写本にはどのような種類があるかについても解明できた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 茨田通俊、ペトブリー地区ワット・ラット寺院所蔵アユタヤー期折本写本試訳、東方、査読有、28号、2012、303-325
- ② 田辺和子、A Comparative Study of the Differences Between the Folding Book Kept in Kakuozan Nittaiji and the Folding Book Kept in Wat Hua Krabu、パーリ学仏教文化学、第26号、2012、193-221
- ③ 田辺和子、ペトブリー地区ワット・ラット寺院所蔵アユタヤー期折本写本の内容、東方、査読有、27号、2011、183-213
- ④ 田辺和子、タイ国18世紀前半作製絵付折本紙写本の構成と内容—水牛寺本・ワットラット本・ニューヨークパブリックライブラリー(ThaiMS. 7)本の比較、仏教研究、第40号、2012、133-147
- ⑤ 田辺和子、水牛寺所蔵絵付折本紙写本全容の構成と内容、パーリ学仏教文化学、査読有、第25号、2011、61-78
- ⑥ 田辺和子、アユタヤー後期からラタナコーシン期初期作製の絵付折本紙写本絵解き(仏伝中心)と経文解説、パーリ学仏教文化学、査読有、第24号、2010、93-109

[学会発表] (計4件)

①田辺和子、A Comparative Study of the Differences Between the Folding Book Kept in Kakuozan Nittaiji and the Folding Book Kept in New York Public Library、第 14 回ヨーロッパ東南アジア考古学国際会議(EurASEAA14 conference)2012 年 9 月 18 日、アイルランド、ダブリン、チェスタビーティ図書館

②田辺和子、A Comparative Study of the Differences Between the Folding Book Kept in Kakuozan Nittaiji and the Folding Book Kept in Wat Hua Krabu、Schoenberg Symposium、2011 年 10 月 22 日、アメリカ、ペンシルヴァニア大学

③田辺和子、水牛寺所蔵絵付折本紙写本全文の構成と内容、パーリ学仏教文化学会第 25 回学術大会、2011 年 5 月 21 日、東京大学

④田辺和子、アユタヤー後期からラタナコーシン期初期作製の絵付折本紙写本絵解き（仏伝中心）と経文解説、パーリ学仏教文化学会第 24 回学術大会、2010 年 5 月 29 日、南山大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田辺 和子 (TANABE KAZUKO)  
公益財団法人中村元東方研究所・研究員  
研究者番号：20217102

### (2) 研究分担者

茨田 通俊 (MANDA MICHITOSHI)  
公益財団法人中村元東方研究所・研究員  
研究者番号：10260126

### (3) 研究協力者

清水 洋平 (SHIMIZU YOHEI)  
大谷大学非常勤講師  
研究者番号：50387974  
原田 正美 (HARADA MASAMI)  
大阪大学非常勤講師  
舟橋 智哉 (FUNAHASHI TOMOYA)  
大谷大学大学院博士後期課程修了